

「福井県民の将来ビジョン」とは？

(ビジョン策定の趣旨、ビジョンの性格)

「福井県民の将来ビジョン」は、おおむね10年先を見通して策定した私たち県民の行動指針です。

現在、グローバル化が新たな局面に入り、また、わが国では、世界各国に先駆けて本格的な人口減少・超高齢社会が到来するなど、福井を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした中、福井の特長を活かしてこれからの課題に挑戦していく必要があります。ビジョン策定の際には、多くの県民の皆さんに参加いただきました。今後、このビジョンを「道しるべ」に、県民、企業、さまざまな団体、市町、県が思いを共有し、行動していきます。



「福井県民の将来ビジョン」の体系

第1章 福井がめざす姿

環境変化への対応

グローバル大競争社会
(経済構造の変化)への対応

人口減少・超高齢社会
(社会構造の変化)への対応

つながり希薄化社会
(人間関係の変化)への対応

福井がめざす将来像

「縁を活かす」福井流生活の確立と継承
○「つながりの力」による課題解決先進県

○「社会貢献層」として元気高齢者が活躍する健康長寿社会
○貢献心を持った「新しい私」が活躍する社会

○福井ゆかりのネットワークによる「ふるさと県民」100万人

「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献
○関西・中京などアジアをつなぐ交流ゾーン
○グローバルな視野を持つ若者や企業人を輩出

○「ふくい」の後継者「育成による商工業や農林水産業の発展」
○アジアの環境・エネルギー問題の解決に貢献

どのようにビジョンを実現していくの？

(ビジョンの推進方針)

このビジョンを実現するためには、県民一人ひとりが福井の将来展望を共有し、力を合わせて行動することが重要です。さまざまな分野における県民運動を展開し、激動の時代の新しい県づくりを推進します。

1

県行政の責務と役割

(「県民主役」の行政を市町とともに推進)

- 変化の大きなこれからの時代を県民一丸となって乗り越えていくため、県民、企業、団体の自主的な活動を引き出し、仕組みづくりを進め、「県民主役」の活動を応援します。
- 県民生活に深く関わっている市町の仕事を支援するとともに、広域的な観点から市町の区域を超えた地域間の交流や連携を生み出し、県内の一体感をさらに高めていきます。
- 国の施策などの動きを「地方自立」の観点から常にチェックするとともに、原子力の安全確保や高速交通ネットワークの整備など県民全体の利益を最大限に高めていくようリーダーシップを発揮します。

(地方と大都市の新しい関係を構築)

- 近隣府県との連携、他の都道府県とのネットワークを拡大し、地方から大都市に進出する若者、都市に集積する企業などを地方に戻すサイクルをつくるための制度提案をおこなうなど、地方と大都市の新しい関係づくりを推進します。

2

ビジョンの実現方策

(さまざまな分野における県民運動の展開)

- 激動の時代に新しい県づくりを進めるためには、私たちが積極的に行動を起こすことが第一歩となり、まずこうした動きを一つにまとめ積極的な運動へと高めていくため、ビジョンを広く県民と共有する広報活動を積極的に展開します。
- 現場主義と市町との緊密な連絡調整の徹底、地区別・分野別に広く県民の意見を聴く「県政アンケート」の充実など、日々の広聴活動を一層強化します。

(具体的な施策・プロジェクトの推進)

- 将来像を実現するためには、変化を続ける経済・社会情勢を的確に把握しながら、弾力的かつ効果的に施策やプロジェクトを推進する必要があります。今後、ビジョンの理念や目標、戦略を参考にしながら、県民生活の現実から離れることなく各年度の予算などを通して具体的な施策・プロジェクトをつくり、実行していきます。



V 交流を広げる（活気）

人口減少・超高齢時代にふさわしい新しい街づくりや「ふくい文化」の創造を進め、活気にあふれる「新しいふるさと」をつくります。高速交通網を活用し、国内外とつながる新たなネットワークを築いて人流・物流を活性化します。

V-1 新時代の街づくり

1 新時代にふさわしい都市改造

- 長期的な展望を持ち、人口減少・超高齢時代にふさわしい「新時代の都市改造」を各市とともに推進
- 福井駅周辺のにぎわい創出など、県都中心部の再設計(リ・デザイン)を福井市とともに推進
- 高齢者標準の街づくりなど、誰もが安心して活動できる公共空間、移動空間を創造
- ICT(情報通信技術)の大きな進歩を活かし、新しい技術を取り入れた情報ネットワークづくりを促進

2 暮らしを高める「ふくい文化」

- 福井の伝統・文化を次世代に引き継ぐ「ふくい文化の後継者」づくり
- 各家庭や企業に伝わる一級の美術品や各地域に残る歴史的遺産などを遺す「ふるさと遺産コレクション」
- ふくいゆかりの作家や作品を紹介する「ふるさと文学館」の設置

3 福井のブランド・観光新展開

- 福井ブランドの創造と発信の強化・ビジネス化の推進、官民の「共働営業」により福井の認知力向上
- 魅力ある観光資源をつなぐ「若狭湾岸ハイウェイ」プロジェクト、「恐竜王国ふくい」のブランド価値向上、ヘルス・ツーリズムなどにより、アジアをはじめ国内外からの観光誘客を拡大



V-2 交流ネットワーク拡大

1 内外の力を活かす「新しいふるさと」

- 国内外に積極的に開き、外の活力を取り込むことによって活気あふれる「新しいふるさと」づくりを推進
- 県内各地域における帰住・移住希望者の受入体制を整え、「ふるさと帰住」や「新ふくい人の誘致」を促進

2 ローカル・ネットワークの発展

- 「ローカル・アンド・ローカル」の自治体ネットワークにより、「地方知」を活かした施策づくりを推進
- 企業、団体、大学、メディアなど地方間の新ネットワークを広げ、地方発のビジネスモデルを創出
- 都市住民へ新たなライフスタイルを提案し、「ふるさと起業」など大都市から地方への新しい動きを創出



子どもの頃から本物の芸術文化を体験



人流・物流の大動脈となる舞鶴若狭自動車道



恐竜王国ふくい(福井県立恐竜博物館)

「福井県民の将来ビジョン」は何をめざしているの？

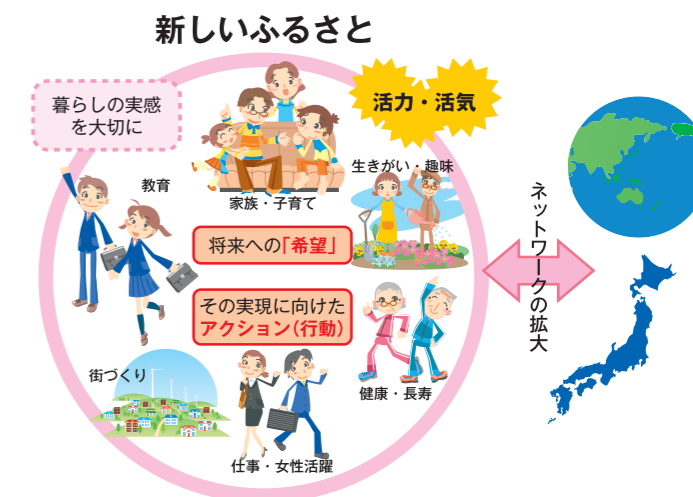
(ビジョンの基本理念)

「希望ふくい」の創造

優れた福井の特性を自覚し、維持するとともに、次の世代へより良くして残すため、新しいみんなの「希望」をつくり、外に開き、力を合わせ行動しよう

ビジョンの基本理念は、「希望ふくい」の創造です。

福井が持つ優れた条件や潜在力を最大限に活かし、みんなで力を合わせて行動することによって、「希望」にあふれるふるさと福井を創造し、次の世代へ引き継いでいきます。



第2章 実現のための戦略

戦略の体系(5つの「活」で福井の「活路」を開く)

- I 人が生きる(活躍)
 - I-1 「人づくり」先進福井
 - I-2 県民活躍社会の創出
- II つながりを活かす(活用)
 - II-1 つながりで築く地域社会
 - II-2 安全で安心な地域づくり
- III 環境を創る(活動)
 - III-1 美しい「福井の風景」創造
 - III-2 環境先端の基盤づくり
- IV 成長を産み出す(活力)
 - IV-1 「福井の産業」新展開
 - IV-2 挑戦する農林水産業
 - IV-3 アジアの成長と活力の取り込み
- V 交流を広げる(活気)
 - V-1 新時代の街づくり
 - V-2 交流ネットワーク拡大

ビジョンの推進方針

県行政の責務と役割

- 「県民主役」の行政を市町とともに推進
- 地方と大都市の新しい関係を構築

ビジョンの実現方策

- さまざまな分野における県民運動の展開
- 具体的な施策・プロジェクトの推進

私たちの生活にどんな変化が起こっているの？ 福井は

私たちの生活に大きな影響を及ぼす環境変化を3つの視点でとらえ、みんなが力を合わせてめざす方向を示します。

(ビジョンの前提となる環境の変化と福井の進むべき方向)

グローバル大競争社会

人口減少・超高齢社会

つながり希薄化社会

(人間関係の変化)への対応

● 工場産業、農林水産業などの後継者育成と海外販路開拓

福井の工場産業、農林水産業は厳しいグローバル競争にさらされています。福井に残る全国有数の「産地」を引き継ぎ、新しい展開をつくり出す後継者の育成と、福井のものづくり基盤を活かした新製品開発や海外への販路開拓が急務です。

● アジア最大の原子力エネルギー技術の集積を活かした産業・人材の育成

環境・エネルギー問題への対応が世界共通の課題となっています。福井の福地地域は、原子力発電所が集積するアジア最大のクワン・エネルギーの供給地です。この基盤を活かして関連産業や人材を育成し、アジアに貢献することが福井の使命です。

● 福井の地理的優位性と歴史的特性を活かしたアジアとの交流拡大

福井はアジアに直面し、関西・中京に近い地理的優位性、大陸と深いつながりを示す多くの歴史があります。また、高速交通網の整備により、福井の立地条件は飛躍的に向上します。これを好機とし、アジアとの交流を拡大していく必要があります。

● 人口構造の変化に適応したライフスタイルの確立

福井の人口は2020年に76万人へ減少、高齢者は23万人と3万人増加すると予測されています。人口減少・超高齢社会に適応したライフスタイルを築き、新しい時代にふさわしい豊かさの基準を福井から積極的に示していく必要があります。

● 子ども高齢者も元気な社会の実現

出生率や高齢者の元気生活率は、全国トップクラスの水準にあります。福井が率先して、子ども高齢者も元気に活躍する社会づくりを進め、新しい時代をリードしていく必要があります。

● 地方と大都市の人口循環の創出

大学進学等を機に、毎年3千人の若者が県外へ流出し、そのうち帰ってくるのは1千人程度に留まっています。地方と大都市の新たな人口循環の仕組みづくりを進め、福井に1人でも多くの人びとが移り住む環境を整える必要があります。

● 福井に残る絆を活かした地域づくりの推進

つながりの希薄化、人びとの孤立化が全国的に大きな社会問題になっています。福井には、三世代同居・近居や「おすそわけ」の生活文化が残っています。福井に残る絆を活かし、地域づくりを推進していく必要があります。

● 行動と交流を生み出す県民気質の醸成

福井は、他県との間における人口移動が少ない県です。地域のつながりが強い反面、積極的に前に出たがらない気質があると言われています。外とつながり、行動と交流を生み出す県民気質をみんなで育てていく必要があります。

● 青少年の自然体験・社会体験の機会づくり

情報化の進展や生活様式の変化などに伴い、子どもたちが実体験を重ねる機会が減ってきています。福井の豊かな自然を守り、さまたま環境を整えていくことにより、子どもたちの自然体験・社会体験の機会を充実することが、今後の課題です。

IV 成長を産み出す (活力)

商工業や農林水産業など福井の産業の技術革新と「ふくいの後継者」育成を最優先に進めます。多様なニーズに応える商品開発力とアジア・マーケットへの販売力を強化し、アジアの成長と活力を取り込みながら福井の産業の成長を産み出します。

IV-1 「福井の産業」新展開

1 「これぞ福井」の技と産地の進化

- 環境・エネルギーや健康長寿など、福井の優れた地域資源を活かしたビジネスモデル創出と産業群育成
- 新たな分野・業種への展開、国内外への販路開拓による工場産業再生
- 企業誘致と立地企業の定着を促進

2 「後継者ラウンド」企業の創出

- 官民一体で雇用の場を確保し、全国最上位の失業率の低さ、求人倍率の高さを維持・向上
- 各産業分野における熟達者の技能の次世代継承と「後継者ラウンド」づくりを促進
- 官民が協力する「起業ビジネス塾」など、若者の力を活かすベンチャー創業や就業促進

IV-2 挑戦する農林水産業

1 売れる福井の特産品群の育成

- 「日本ーおいしい米」、「高品質な木材」、「新鮮な海の幸」など、安心・安全で付加価値の高い「売れる福井の特産品群」を育成
- 坂井北部丘陵地における企業的農業や農林水産業の「6次産業化」を促進

2 豊かな農山漁村の保全と活用

- 農学分野の後継者育成を進め、食料生産と美しい景観の基盤となる優良農地を保全
- 新鮮で安全・安心な地元産の農林水産物の「産地消」と「食育」をさらに充実
- 福井の農林漁業を体験する教育旅行や園芸福祉など新たな価値を創造

IV-3 アジアの成長と活力の取り込み

1 販路を開くアジア・マーケットへの進出

- 福井の卓越したデザイン力や技術力、信頼性を活かした逸品づくりを進め、アジア市場へ積極的に進出
- アジア市場の開拓に向けた官民連携の商社機能をつくり、県内企業などの海外進出を応援

2 人が行き交うアジア・ネットワークの強化

- 環日本海物流の中心となる港湾機能を強化し、韓国・中国などへの「広角的な福井航路」を開設
- 県立大学などにおいて、アジアで活躍するグローバル産業人材を育成



フッショヨから宇宙まで広がる福井の繊維産業



優れた加工技術を誇る福井の眼鏡産業



コシヒカリのふるさと福井

どのような方向に進んでいけばいいの？

Ⅲ 環境を創る（活動）

福井の海・山・里・川など豊かな「自然資本」を守り育て、ふるさとの景観を維持・改善し、美しい「福井の風景」を次世代へ継承します。また、最先端となる低炭素の街づくりを進め、成長するアジアのモデルをめざします。

Ⅲ-1 美しい「福井の風景」創造

1 多様な環境の保全活動

- 美しく多様な福井の自然を守り育てる環境保全活動を広げ、豊かな「自然資本」を次世代へ継承
- コウノトリ水田や湖沼・湿地帯などを生物多様性の「ホット・エリア」として保全
- 中山間地域を中心に住民生活を守る鳥獣被害対策や災害に強い森づくりの推進
- 「3R運動」によるごみ減量化、環境と経済が両立する地域循環システムづくり

2 次代に残す農村と街のたたずまい

- 福井に残る伝統的民家や街並みなど、美しい「福井の景観」を保存・継承
- 景観に配慮した住まいや街並みなどを学ぶ「住教育」の展開
- 社会基盤の多くが修繕・更新期を迎えるのを機に、地域景観に配慮したインフラ更新



Ⅲ-2 環境先端の基盤づくり

1 エネルギー技術開発と人材育成

- 原子力・エネルギー分野における最先端の研究開発・人材育成と産業集積
- 国内外から優秀な研究者、技術者などが集う拠点づくりを進め、アジアにおける原子力の安全技術・人材育成に貢献

2 低炭素の街づくり推進

- 「エコ・エネルギー・コリドール(回廊)」プロジェクトなど、低炭素化社会の実現をめざすクリーン・エネルギーの街づくりを推進
- 脱マイカー運動や自転車への乗り換え運動などによる「ゼロカーボンライフ」への転換促進



千本格子の家々が連なる町並み



伝統的民家が立ち並ぶ里地里山



最先端の研究を担う若狭湾エネルギー研究センター



私たちが共有する これからの方向

- 福井に残る地域、伝統、文化の良さを活かし「つながり」を再構築し、活力ある暮らしのスタイルをみんなでつくり上げ、次世代に引き継いでいきます。
- 福井の地理的優位性やオンリーワンのものづくり技術を活かし、成長を続けるアジアの活力を取り込み発展・成長していきます。
- 戦後65年を経た時代の転換期を迎え、環境の変化に対応して地域、社会、産業などを自ら変えていく「人づくり」を大切にしていきます。

福井の良さを
活かしていかないとね



福井の良さってなんだろう？

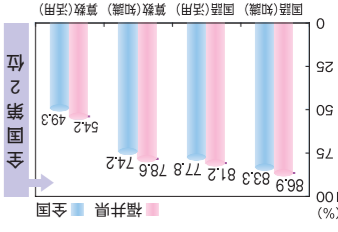
ようなもの？

(子育てで見る福井の特長)

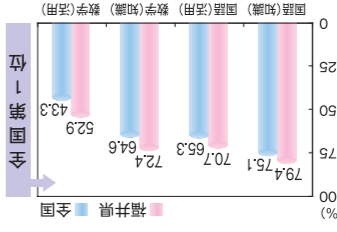
福井には、子どもたちの優れた学力・体力・健康長寿、女性の社会進出の高さ、家庭や地域の安定、卓越した技術力を持つ県民の雇用を支える産業など、全国有数の暮らしやすい基盤があります。

文武両道の教育環境。福井の子どもたちは「学力・体力日本一」です！

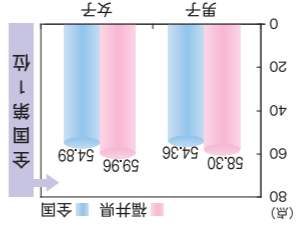
全国学力・学習状況調査 平均正答率(平成22年度)



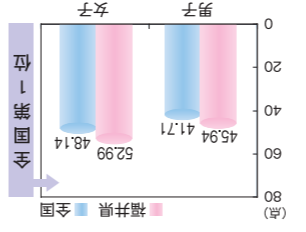
中学校3年生



小学校5年生

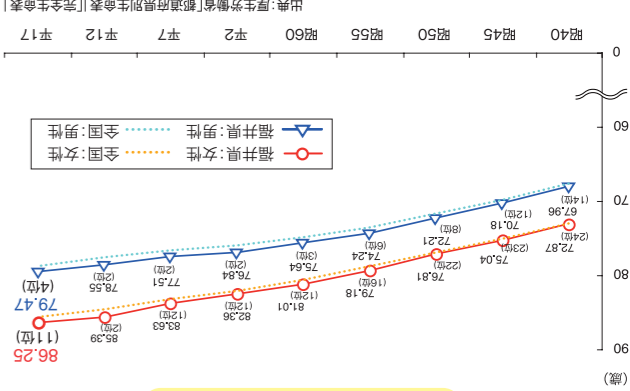


中学校2年生

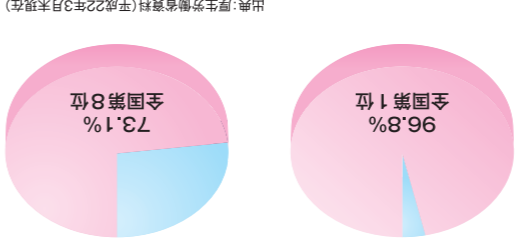


健康長寿の福井。福井の高齢者は日本一元気です！

平均寿命の推移



高齢者の元気生活率*



*元気生活率…要介護認定を受けていない人の割合

出典:厚生労働省資料(平成22年3月末現在)

生活の豊かさ日本一！ 家族や地域で支えあって暮らしています。

三世帯世帯割合

順位	県	割合(%)
1位	山形県	24.9
2位	福井県	20.2
3位	秋田県	19.3
3位	新潟県	19.3
5位	富山県	19.0
全国	全国	8.6

出典:総務省「国勢調査」(平成17年)

県調査によると、三世帯近居(車で15分圏程度)も4割。同居・近居合わせて6割に達します。

女性の就業率

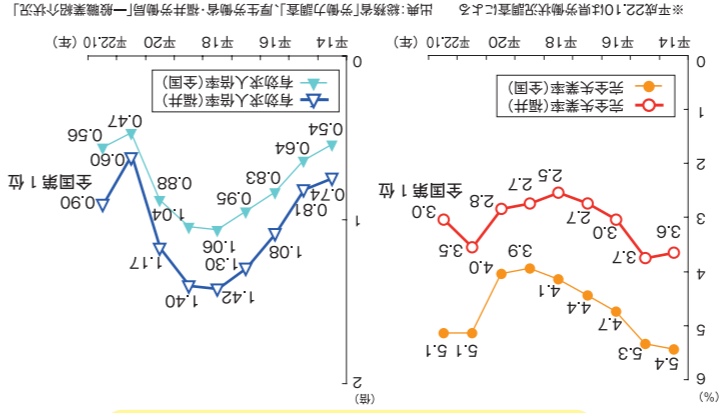
第1位 51.6%
出典:国勢調査(平成17年)

1世帯当たり年間収入(勤労者世帯)

第2位 8,143千円
出典:全国消費実態調査(平成21年)

持ち家比率

第3位 77.4%
出典:住宅・土地統計調査(平成20年)



※平成22.10は県労働状況調査による 出典:総務省「労働力調査」厚生労働省・福井労働局「一般職業紹介状況」

II つながりを活かす (活用)

福井に残る「家族や地域のつながり」,「人と人の新しい縁」を活かして育てることによって、子育て、高齢者福祉、地域の安全・安心を地域ぐるみで応援します。日本やアジアの先進モデルとなる地域社会を実現します。

II-1 つながりで築く地域社会

1 子育て応援から「子育て環境」への挑戦

- 地域における助け合いシステムや仕事との両立支援による子育て応援
- 多くの子どもたちが集う機会の充実など、子どもの「自ら育つ力」を伸ばす子育て環境整備
- 結婚を望む男女を応援する「縁結び先進県」

2 エイジング・イン・プレイス(地域で自分らしく老いることのできるふるさと)

- 地域医療・介護の環境整備とケア対策の充実
- シェアードリビング(総合長寿学)の知見を活かす「エイジング・イン・プレイス」の仕組みづくり
- 公民館や小学校などと連携し、子育てや三世交代交流、コミュニティビジネスの拠点を充実
- 人口減少や高齢化が進む地域における住民生活支援の仕組みづくり

II-2 安全で安心な地域づくり

1 信頼を互いに感じあえる安心生活

- 「つながりの力」による見守り活動など、県民総ぐるみの「犯罪の起きにくい社会づくり運動」
- 地域防犯活動のリーダーや後継者育成など活動継承のための支援

2 災害に強い街づくり

- 消防団や自主防災組織などの強化による地域防災力向上
- 災害に強い社会インフラの整備や水害・土砂災害対策などの推進

3 原子力の安全・安心の確保

- 高経年化が進む原子力発電所の安全・安心の確保
- 実践的な原子力防災訓練の継続実施など原子力防災対策の強化



子どもからお年寄りまで参加する地区運動会



地域で見守る「子ども安心県民活動」

ビジョンの実現をめざしてこれから進める戦略ってどの

(戦略の体系)

福井の将来像を実現するための戦略を示します。5つの「活」により、大転換期にある福井の「活路」を開いていきます。

I 人が生きる (活躍)

「ふるさと福井」への誇りと愛着を持ち、自らの将来に「希望」を持ってグローバルな視野で行動する人材を育てます。県民一人ひとりが行動力を発揮する「県民活躍社会」を創出し、時代の転換期をリードします。

I-1 「人づくり」先進福井

1 福井流の学力・体力を活かし次をめざす学校教育

- 「外」の知見を学校に活かす「オープンネットワーク教育」を広げ、「挑戦力」を持つ人材を育成
- 「幼児教育」の充実など、幼少期から青年期までの接続を重視した教育を推進
- グローバル時代をリードする福井人を育てる「国際教育」、「情報教育」、「サイエンス教育」
- 福井の先人や歴史を通して生きる姿勢、行動力を学ぶ「ふるさと教育」の推進



2 体験・交流する地域教育

- 「地域教育プログラム」をつくり、自然体験や社会経験を通して青少年を育む地域教育を推進
- 暮らしに役立つ最先端の知識や技能を高める生涯学習の機会を充実

3 「1県民1スポーツ」の健康づくり

- 平成30年国民体育大会を契機に、「1県民1スポーツ」運動を促進
- 季節ごとに家庭や地域、学校において楽しめるニュースポーツの拡大



I-2 県民活躍社会の創出

1 「一人もう一役」の活躍

- 子育てや教育、ボランティア活動など、県民や企業の「一人もう一役」を買って出る活動拡大
- 障がいのある人の雇用拡大と賃金向上

2 女性のゆとりと活動の応援

- 男性の家事・育児参加やホームマネジメントビジネス支援による「女性のゆとり時間プラスワン」
- 女性のネットワークづくりや起業の促進など、女性の活躍を応援する社会づくり

3 アクティブ・シニアがあたりまえの地域

- 健康で元気なアクティブ・シニア層が「社会貢献層」として「もう一役」できる活躍の場を創出



A L T (英語指導助手)による高校生英語キャンプ



福井豪雨のボランティア活動

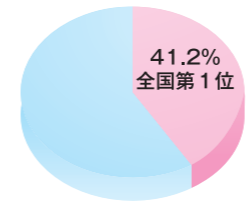


ものづくり日本一！ 繊維、眼鏡をはじめ、産地や企業が元気です。

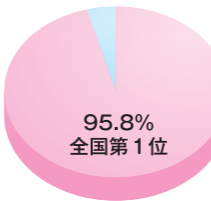
製造品出荷額のシェア、順位

※順位は、当該事業所が3つ以上ある都道府県の出荷額順位

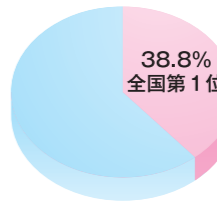
[繊維] ポリエステル長繊維織物



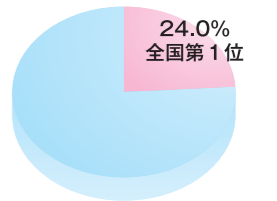
[眼鏡] 眼鏡枠



[漆器] 食器類



[和紙] 手すき和紙



出典：経済産業省「工業統計調査」(平成19年)

社長輩出数(人口10万人当たり)

第1位 1,752人
出典：帝国データバンク調査(平成23年)

人口1万人当たり全事業所数

第1位 590.7所
出典：事業所・企業統計調査(平成18年)

福井生まれのコシヒカリ作付面積シェア

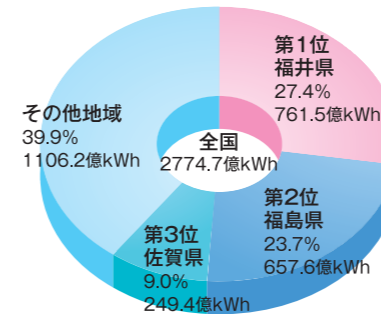
第1位 37.3%
出典：米穀の流通・消費等動態調査※平成21年産

六条大麦作付面積

第1位 4,850ha
出典：作物統計調査 ※平成22年産

エネルギー貢献日本一！ 福井はアジア最大のクリーン・エネルギー供給地です。

原子力発電電力量(平成21年度)



関西エリアの使用電力量の5割を福井県で発電しています。

福井県内原子力発電電力量(平成21年度)

761.5億kWh

(参考) 関西電力供給圏使用電力量(平成21年度)

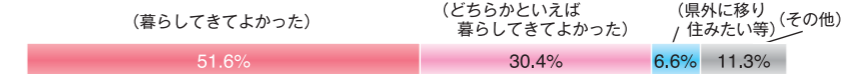
滋賀県、京都府、大阪府、奈良県、兵庫県、和歌山県等 合計 約1,416.0億kWh

0 200 400 600 800 1,000 1,200 1,400 1,600

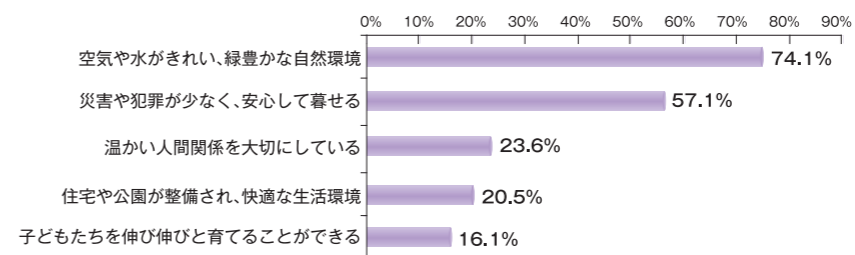
出典：福井県原子力安全対策課資料

多くの県民が福井の暮らしに満足しています「県政マーケティング(平成22年6月)」の結果より

福井に暮らしてきて良かったと思いますか



福井の良いところはどこだと思いますか



※割合は、「各項目の回答者数/回答者総数」



自然が美しく治安が良い 福井って暮らしやすいね

Eジヨンではどんな将来像を描いているの？

(福井がめざす将来像)

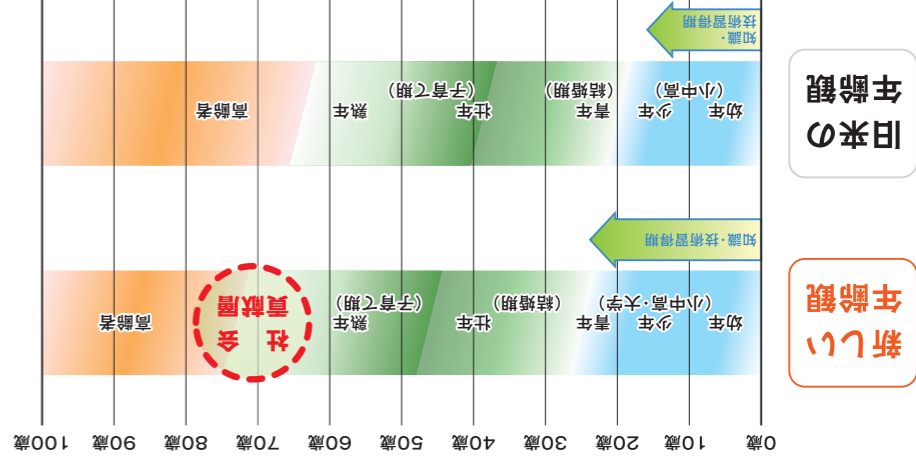
私たちは2つの将来像を描け、新たな時代をリードする福井をつくりたい。

1

「縁を活かす」福井流生活の確立と継承

- 「つながりの力」による課題解決先進県
グローバル化や人口の減少・超高齢化が進む今こそ、私たちはふるさと福井の歴史や良き伝統・文化の中で育まれてきた「つながりの力」を活かすときです。子育て、教育、雇用、結婚、医療、介護など、福井が直面するさまざまな課題に県民が一致協力し、全力を尽くす課題解決先進県をめざします。
- 「社会貢献層」として元気高齢者が活躍する健康長寿社会
今日すでに60歳代～70歳代の世代は、健康を維持し元気に活動するアクティブ・シニア層です。福井では、こうした高齢者を「社会貢献層」ととらえ、地域や社会のために活躍できる環境を整えることにより、今後国内外において急速に進む健康長寿社会のモデルをめざします。
- 貢献心を持った「新しい私」が活躍する社会
新しい私は、個人を尊重しながら地域や社会のことを考え行動するという新しい生き方、人間像を示すキーワードです。「おすそわけ」の文化など福井の良き伝統や度重なる災害などの経験を活かし、新しい私が地域や社会のためにもう一役を買って出る新しい気風を育て、人とのつながりを実感できる社会をつくりたい。
- 福井ゆかりのネットワークによる「ふるさと県民」百万人
福井は、「ふるさと納税」の提唱県です。私たちは、県外から広く知恵や応援を集める外に開かれた県づくりを進めています。県外在住の福井出身者、福井創業の企業、国内外の福井ファン知恵やエネルギーを活かす「ふるさと県民」の新ネットワークを築き、人口百万人規模の地域活力を創造します。

新しい年齢観と「社会貢献層」



2

「アジア交流ゾーン福井」の成長と未来への貢献

- 関西・中京などアジアをつなぐ交流ゾーン
福井は、関西・中京圏に近くアジアに開いた地理的優位性、ものづくりやエネルギーに関する長年の技術集積など歴史的特性を持っています。敦賀港や広がる高速交通ネットワークを最大限に活用し、関西・中京経済圏とアジア・マーケットをつなぎ、アジアの活力を取り込む「交流ゾーン福井」を実現します。
- グローバルな視野を持つ若者や企業人を輩出
「粘り強い」、「勤勉でまじめ」と評される福井県民には、多様化する一人ひとりの価値観やライフスタイルを尊重しながら、力を結集して課題に立ち向かう資力が備わっています。子どもたちの学力・体力日本一という優れた福井の教育を次の段階に進め、「ふるさと福井」への誇りと国際的な視野を持つに絶えず挑戦し、幅広い分野において活躍する「グローバル人材」を育成します。
- 「ふくいの後継者」育成による商工業や農林水産業の発展
福井には、長い歴史を持つ伝統工芸や高い技術力を有する繊維・眼鏡など全国有数の「産地」が集積し、オンライン・オフラインの技術を持つ元気な中小企業が数多く立地しています。福井の商工業・農林水産業の経営やものづくりの技術を引き継ぎ、アジアの新産業として発展させる「ふくいの後継者」と後継者フロンティアを育成します。
- アジアの環境・エネルギー問題の解決に貢献
福井は豊かな自然に恵まれ、また、原子力によるクリーン・エネルギーの供給地域として環境に大きく貢献しています。原子力・エネルギーの研究開発、人材育成、低炭素の街づくり、環境保全のモデルを示し、アジアの経済成長の先にある環境・エネルギー問題の解決に貢献します。

アジアの中の福井

